佳作

私の目指すところ

福島県いわき市立中央台南中学校
３年　角田　優香

私は今年受験生となり、勉強に対する意識を高くせざるを得ない。定期試験前の教室では、皆が良い点数を取るため、必死に暗記をしたり、ワークを解いたりして、今にも、
「うおー」
という声が聞こえてくるようだ。私はその皆の様子を見て、
「今までの勉強方法を変えた方がいいのではないか。」
と、焦りを感じた。これまで私は、夢に向かって夢を実現させるために勉強をしてきたはずだ。なのに、なぜ勉強することに焦りを感じたのだろうか。

私は将来、人としての社会性を持ち、正しい知識を持った研究者になりたいと思っている。小学生の時に、つくばにある宇宙航空研究開発機構（ＪＡＸＡ）と、高エネルギー加速器研究機構（ＫＥＫ）を家族で見学に行った。父と母が仕事の関係で施設に出入りしていたこともあり、ＪＡＸＡおよびＫＥＫの一般公開に参加した。ＪＡＸＡでは、ＩＳＳ国際宇宙ステーションでのさまざまな実験のことや小惑星探査機はやぶさについての展示を見て回った。ＫＥＫでは、Ｘ線の回析装置などの展示を見て回った。どちらの施設においても、私の知識では理解することが難しいものばかりだったが、ここでの研究の成果は、将来人のためになることだということは当時、小学生だった私にも分かった。

私が研究者になりたいと思った理由は、世の中の困っている人を助けたいと思ったからである。怪我や病気で困っている人、不平等な社会の対応に困っている人々を救える知識を持ちたいと思った。その土台となる知識を得るために私は学問を学んでいるのだ。そして、この知識を正しく使うためには人としての社会性を持つことが最も大切だと思っている。

そもそも、人の本質というのはどのようなものだったのだろうか。
「社会性があり、勉強ができる人が立派だ。」ということは、世間一般に通用するだろう。社会性があるとは、どういう人のことをいうのだろうか。社会に認めてもらえるような心を持つ人、協調性がある人のことなどが思い浮かぶ。私は、学問を学ぶことから、人間性とは何かを知ることができたと思っている。

中学１年生の頃は、まだ自分の勉強法が身に付いてなく、「シグモイド曲線（生物の神経細胞が持つ性質をモデル化したもの）」の土台を作るのが大変だった。母や家族の支えがあったことで、部活動と勉強の両立にも少しずつ慣れ

ていった。勉強は、塾の先生に教えてもらったり、母のアドバイスを参考にしたりして、方法を作り上げることができた。

中学２年生の頃は、周りの人の意見に流されて、学問を学ぶことがなかなかできなかった。私は母に悩みを聞いてもらい、

「心を強くする。」

ということを教わった。私はこれまでに、母や周りの人たちにたくさん助けられた。その感謝を忘れずに、いろいろな経験を積んで、社会性をはぐくみたいと思った。

中学３年生になり焦った私は、今までの勉強方法を変えて、十分な理解もせず、ただただ問題を解いていた。その結果、自分の知識にならず、うまく点を取れなかった。さらに、意気込み過ぎて、ミスを多くしてしまった。私にとって、初めての経験だった。自分の今までの勉強の感覚を取り戻し、自分が納得がいく学問にまた戻そうと思った。周りの人に流されてしまったため、このような事態を招いてしまったと思う。これは、自分の心がまだ弱いということの表れだと思う。今後も学問を学んでいくためにも、自分をもっとしっかり持ち、何が大切なのか、何が重要なのかを考えながら中学校生活を送っていきたいと思う。

私は、研究者になりたいという夢に向かって学問を学んでいる。同時に人としての社会性を持つための学びもしている。つまり、知識を身に付けるための勉強方法とは、問題を解くテクニックではなく、学問に取り組む心持ちがしっかりしているかどうかであると思う。この心持ちこそが、私が目指すところの人間性なのだと今は考えている。それを目指して夢に向かって知識を付けていきたい。